

スポーツ・観光対策特別委員会会議録

平成28年7月22日

場 所 第5委員会室

平成28年7月22日（金曜日）

スポーツ振興課長 古木克浩

午前10時0分開会

会議に付した案件

○概要説明

教育委員会

1. 国体の施設基準及び競技実施可能施設等について

○意見交換

1. 2巡目国体に向けた施設整備のあり方について

○協議事項

1. 県内調査について
2. 県外調査について
3. 次回委員会について
4. その他

出席委員（11人）

委員	長	丸山	裕次郎
副委員	長	日高	博之
委員		外山	衛
委員		松村	悟郎
委員		後藤	哲朗
委員		右松	隆央
委員		野崎	幸士
委員		前屋敷	恵美
委員		有岡	浩一
委員		徳重	忠夫
委員		井上	紀代子

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

説明のため出席した者

教育委員会

意見交換のために出席した者

一般財団法人宮崎陸上競技協会

理事長 申間 敦郎
宮崎県水泳連盟

理事長 水島 千江子
一般社団法人宮崎県バスケットボール協会

専務理事 米田 史彦
公益財団法人宮崎県スポーツ施設協会

常務理事兼事務局長 入倉 俊一
公益財団法人宮崎県体育協会

専務理事 川崎 重雄

事務局職員出席者

政策調査課主任主事 押川 幸司
議事課主査 沼口 恭一郎

○丸山委員長 それでは、ただいまからスポーツ・観光対策特別委員会を開会します。

まず、新会派の結成に伴う議員席の変更についてであります。

ただいま御着席のとおりでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○丸山委員長 そのように決定いたします。

次に、本日の委員会の日程でありますがお手元に配付の日程（案）をごらんください。

本日は、まず、教育委員会のほうから1巡目国体で使用した施設の現状等について概要説明をいただいた後に、スポーツ関係団体との意見交換を行いたいと思います。出席者は資料1のとおりであります。

その後、県内調査、県外調査、次回委員会などについて御協議いただきたいと思いますが、

このように進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○丸山委員長 それでは、そのように決定いたします。

なお、本日は1名の傍聴希望がありますけれども、これを許可してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○丸山委員長 許可するというので決定いたします。

それでは、執行部、団体及び傍聴人入室のため暫時休憩いたします。

午前10時2分休憩

午前10時3分再開

○丸山委員長 それでは、ただいまから宮崎県スポーツ・観光対策特別委員会とスポーツ関係団体との意見交換を始めたいと思います。

まず初めに、私は当委員会の委員長をしております丸山といいます。本日、大変お忙しい中にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

我々委員会として、2巡目国体の内定をいただきまして、いろいろ県の施設を見たときに、1巡目の国体で使用された県有スポーツ施設は老朽化が進んでおりますし、また1巡目では県内市町村が有する施設も活用したのですが、その施設もかなり老朽化が進んでいるということを知っています。そして、2巡目国体が平成38年ということでありまして、あと10年しかないというような思いがありまして、この1年間の中で方向性をしっかりと出していきたいと思っております。そのためには現場で苦労されているスポーツ団体の方々との意見交換をぜひしたいと思ひ、皆様にお集まりいただきました。本当にありがとうございます。きょうは、

忌憚のない意見を賜るとありがたいというふうに思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

それでは、座って委員の紹介をさせていただきます。

まず初めに、私の隣が日高博之副委員長でございます。

続きまして、皆さんから見て左側でございますけれど、外山衛委員でございます。

松村悟郎委員でございます。

後藤哲朗委員でございます。

右松隆央委員でございます。

野崎幸士委員でございます。

続きまして、皆さんから見て右側でございますが、前屋敷恵美委員でございます。

有岡浩一委員でございます。

徳重忠夫委員でございます。

井上紀代子委員でございます。

それでは、意見交換に先立ちまして、教育委員会のほうから1巡目国体で使用した施設の現状等について概要説明をお願いしたいというふうに思います。

○古木スポーツ振興課長 おはようございます。よろしくお願いいたします。

早速ですが、スポーツ・観光対策特別委員会資料の1ページをごらんください。

国体の施設基準及び競技実施可能施設等につきまして御説明をいたします。

まず、表の一番左の列の競技種目等ですが、平成38年の2巡目国体の競技種目は平成29年度に決定することになっておりますので、ここでは総合開・閉会式と、既に決まっております平成31年大会から34年大会の正式競技であります38の競技を記載しております。

なお、昭和54年の宮崎国体では29の競技が実

施されましたが、その後の国体において競技種目は増加しております。

次に、左から2列目に、昭和54年国体会場地を記載しております。昭和54年の宮崎国体では、県総合運動公園を初め、県下17市町村において各種競技が実施されたところであります。

次に、左から3列目の現在の国体施設基準であります。各競技種目ごとに基本的な施設基準を記載しております。

次に、一番右の列の国体施設基準の適否及び競技実施可能施設であります。左から2列目の昭和54年国体に使用した会場地及び現在県内にある施設が3列目の現在の国体施設基準を満たしているか否か、また競技が実施可能かどうかについて整理したものでございます。

県内の施設が現在の国体施設基準に適合している場合は丸印を記載し、競技実施の可能な施設を記載しております。また、不適合の場合は三角、またはバツ印を記載し、その理由を記載しております。

表を見ていただきますと、ほとんどの競技につきましては、県内市町村の既存の施設で競技は実施可能であると考えております。

具体的な例を御説明いたしますと、3番目のサッカーの例を紹介したいと思います。昭和54年の宮崎国体では、延岡市の西階陸上競技場ほか県立学校のグラウンドを使用しております。

現在のサッカー競技における国体施設基準は、1つ目に規定の競技場芝生7面以上であること、2つ目に2つの会場以上に分かれてよいこと、3つ目に原則天然芝とするが、3面まではJFA日本サッカー協会公認の人工芝を使用可能であることと規定されていますので、この条件を踏まえまると、現在県内には国体施設基準に適合するサッカー場が7面以上ございますので、

そのような記載となっております。

次に、国体施設基準の適否が、三角またはバツの競技種目について個別に御説明をいたします。

まず、総合開・閉会式及び1の陸上競技についてであります。県総合運動公園陸上競技場を使用することとなりますと、観客席が7,000席しかないこと、スタンド屋根や電光掲示板、夜間照明施設がないことなど、施設基準を満たしていない状況にあります。

また、総合開・閉会式において、雨天の場合は式典会場となります。体育館が必要となりますが、現在の県体育館を使用することとなりますと、収容人数の不足や空調設備がないことが課題となっております。

次に、2の水泳につきましては、県総合運動公園水泳場はタッチ板を設置すると長さが50メートルに足りないこと、水球やシンクロナイズドスイミングを行う水深の不足など、施設基準を満たしていない状況にあります。

次に、資料の2ページをごらんください。

一番下の29の山岳について御説明いたします。

山岳は、ウォール、いわゆる人工壁を上るリード競技とボルダリング競技が行われます。

まず、リード競技は、高さ15メートル程度、幅3メートル以上の人工壁を時間内にどれだけ高く登るかを競う競技であります。現在、県体育館にリード施設がございますが、面数の不足、傾斜角度の不適合により、施設基準を満たしておりません。

また、ボルダリング競技は、高さ5メートル、幅6メートルの比較的低い人工壁を幾つか登り、登り切った数で競う競技であります。そのためボルダリング施設もございません。

次に、資料の3ページをごらんください。

一番上の30番のカヌーについてでございますが、カヌー競技は、カヌースプリント、カヌースラローム、カヌーワイルドウォーターの3つの種目がございます。

まず、静水面で複数の艇が一斉にスタートして着順を競うカヌースプリントは新富町にございます富田浜漕艇場で実施可能であります、河川につるされたゲートを通り技術と所要時間の両方を競うカヌースラロームと、河川の激流を下り所要時間を競うカヌーワイルドウォーターにつきましては、現在のところ適地がございません。

また、一番下の隔年開催のクレー射撃につきましても県内に競技施設がない状況でありますので、この2競技につきましては、仮設あるいは隣県施設の活用を含めて検討していくことになると考えております。

資料の説明は以上でございます。

○丸山委員長 ありがとうございます。

続きまして、本日おいでいただきました団体様に、2巡目国体に向けた施設整備のあり方等につきましても御意見をいただきたいと思っております。

まず初めに、宮崎陸上競技協会様をお願いしたいと思います。

○串間理事長 宮崎陸上競技協会理事長の串間でございます。このたびはこのような機会をつくっていただきまして、まことにありがとうございます。

今回、宮崎市木花にあります県総合運動公園陸上競技場につきまして、日ごろ競技会で使用している立場から、現状と今後の陸上競技場の整備について述べさせていただきます。短時間で端的に漏れなく説明するために用意した文書を読ませていただきます。

運動公園にあります第1陸上競技場ですが、今から43年前に建設されました。その当時は、まだ全国でも数少ない全天候走路で最新の競技場でした。それから現在に至るまで、抜本的な改修や改築、大きな設備の附帯工事は行われておりません。

他県の第1種公認陸上競技場と比較すると明らかに設備が劣るために、今、全国規模の大会は誘致できません。他県の競技場と比較して、設備としてないものは、先ほどスポーツ振興課長からも御説明がありましたが、電光掲示板と夜間照明設備が挙げられます。

電光掲示板は、競技会進行や記録の伝達等のサービス提供の面でも、今日の競技会においてはなくてはならないものです。夜間照明設備は、この設備があることで、夏には午後の競技を夕方、夜の部に振りかえての実施や、ナイターでの競技会を開催することができ、また全国や九州大会では競技時間に余裕がないために夕方、夜にかけて長時間開催されることがあり、全国的な大会を開催するためには必須の設備になります。

ほかでは、第1種公認競技場には必ず附帯しなければならない補助競技場の仕様が変わったことにより、本来の補助競技場では公認が取れなくなり、第3競技場、今のサッカー場を補助競技場として申請していますが、第1競技場からは往復1キロメートルと遠いために、選手のコンディションにはよくない環境と考えています。

また、大規模大会時には多くの部屋が必要となりますが、40年前と競技運営環境が大幅に変わっていることから、情報処理室、ドーピング検査室等、現在の競技場の部屋数では賄い切れません。

また、雨天時の屋内練習場は必須になりますが、現在のメインスタンド下にある雨天練習場は直線距離とレーン数が足りません。観客席もメインスタンドでは観客席からグラウンド面が遠いことや、日差しや風雨の強い宮崎県では全面屋根つきのスタンドが必要と考えており、今の観客席では対応できていないと考えています。

そして、現在、競技会運営時には、運営システムや電源のラインを入れている管が腐食していることが原因で電気系統の故障やトラブルが起きていますが、抜本的には改修しないことにはこの点は解決できないというふうに言われています。

以上のことから、現在の陸上競技場では、次期国体でこのままでの使用はできないということが御理解いただけたかと思えます。我々は、これらの設備などを別々に施工するよりも、国体を機に新しい競技場を新設していただきたいと考えています。新設するのであれば、現在8レーンの走路も、新設の競技場は今どこの競技場でも施工している9レーンの走路を、選手のためにもグラウンド維持管理のためにも希望したいと思います。

また、今後、宮崎にあるクラブがJリーグに昇格することも考えられることから、J2レベルの基準に対応したスタジアムにする必要性も考えられます。陸上競技協会もサッカーとの共存共栄を図れるよう協力していきたいと考えています。

最後に、陸上競技場を新設する際の場所ですが、当協会では現在の県総合運動公園に建設していただきたいと考えています。その理由の一つには、現在の場所が、JR、バス等の交通機関が整備されており、加えて空港からも近いという立地は、県外からの利用者にとっても利便

性が高いと思うからです。また、公園内に合宿所や自然の家という宿泊場所が整備されており、近くにも青島の宿泊施設があることから、合宿や大会開催時には選手や応援者等にとって宿泊環境が整っています。また、運動公園内にあるということで相互に補完し合う施設があり、利用者の利便性が高まると考えます。

津波対策については、地震発生時には5メートル規模の津波が来るとの予測があります。想定外の津波にも対応できるように、競技場自体をかき上げしてつくることと、スタンドをサンマリンスタジアムの波の高さに設定し、避難場所にできればと考えています。

また、先日、2年前の長崎国体のメイン会場となった諫早陸上競技場などを視察してきました。この競技場は、車椅子と高齢者専用のエレベーターを他とは別に設置しており、このような対応設備を付設すれば、障がい者でも避難できると考えています。

国体終了後も、各種全国大会や国際大会が開催でき、スポーツランドみやざきを支える中核施設となるような名実ともに日本に誇れる新競技場、スタジアムの建設をお願いしたいと思います。

以上で終わらせていただきます。

○丸山委員長 ありがとうございます。

続きまして、宮崎県水泳連盟様にお願いいたします。

○水島理事長 宮崎県水泳連盟理事長の水島と申します。

水泳連盟では、2巡目国体の開催に当たり、現在の県立プールでは全く基準に合っておらず、全国大会は開催されないと考えております。昭和54年の宮崎国体以来、大きな改修もされず、約40年以上も経過しようとしております。2巡

目国体が開催されるのであれば、プールそのものを全面建てかえが必要となると思います。スポーツランドみやぎきにおいて、正式競技用プールがないこと自体、水泳競技並びに水球、シンクロ、飛び込みの今後の発展は厳しいものと考えております。

現在、県立プールでは水温は35度を超えております。これは、お湯の中で泳いでいるのと同じでございます。観客席においては、屋根もございません。毎年、熱中症による救急搬送が出ている状況です。九州大会も開催できないほどです。他県からは、もう宮崎では開催してほしいという声まで上がっております。

現在、九州ブロック大会競技は水球競技、シンクロ競技が行われておりますが、宮崎ではこれらは開催できないので他県にお願いしております。これについても、私どもとしては非常に心苦しいものがあります。

50年に一度しか新設されないものであれば、それこそきちんとしたものをと考えております。また国際競技も、日本では開催が首都圏だけに限られております。九州で一番の国際プールということも今後考えていくべきではないかと思っております。

次の2巡目の国体は身の丈国体とは言われますが、ぜいたく、豪華なものをつくるものではなく、50年に一度のプールということを考えるのであれば、世界に通用するものをつくってもおかしくないのではないのでしょうか。今の現状のプールでは、8レーンしかございません。全国大会を開くのであれば、10レーンが必要です。現在のプールの改修では難しいと日本水泳連盟も言われております。

タッチ板も宮崎ではございません。これによって、よくトラブルも生じます。現在のタッチ板

も2001マスターズで購入されたものであり、それ以後、一切購入されておられません。

コースロープに至っては、もうすかすかの状態でございます。本来では、5メートルライン、25メートルラインというのがきちんと規定で決まっていなければならないものが、現在すかすかの状態で、競技もままならないという状態で私たちは運営をしております。これについても、何度かお願いはしておりますが、予算の関係上ということではねられております。

私も宮崎国体に出場した一人であります。競技者として、他県に誇れるプールをつくっていただきたいと。負の遺産になるかならないかはその後の運営次第だと思います。企画力、実行力、そして集客人数。プールイコール泳ぐという感覚では、もう発想も古いと思います。ビジネス的にも考え、観光と結びつけるのも大切ではないかなと思っております。今、日本では、水泳が非常に盛んでございます。オリンピックでも、毎回決勝のチケットは完売です。また、今回の日本選手権も毎回4,000席を埋め尽くしており、非常に高い視聴率もっております。

また、プールは災害用にも非常に活躍するということが、今回の熊本県の地震でも話題になりました。西日本一大きい熊本県のアクアドームですが、これについては、避難場所にもなっております。プールは日常生活の水を確保できるところでございます。50メートルプールにはかなりの水がございます。生活用水を確保するには、非常にいい場所ではないかと思っております。

そして、我々は、やはり宮崎市内に建設をしていただきたいと考えております。それにつきましては、やはり日本選手権等を誘致するに当たり、4,000席、そして4,000人の宿泊、交通網、そういったものを考えますと、宮崎市が一番適

合しているのではないかと思います。

未来の子供たちにとえば聞こえはいいものですが、10年といえば、もうすぐそこです。私たちも署名活動をし、鈴木スポーツ庁長官にも来ていただきました。そして、国体委員長の泉副会長にも来ていただきました。いろんな形で私たちも頑張っておりますので、ぜひ御協力をいただきたいと思います。

以上で終わります。

○丸山委員長 ありがとうございます。

続きまして、宮崎県バスケットボール協会様をお願いいたします。よろしく申し上げます。

○米田専務理事 一般社団法人宮崎県バスケットボール協会の米田でございます。今日は、スポーツ・観光対策特別委員会の委員の皆様にはヒアリングをしていただくこと、感謝申し上げます。

本県バスケットボール協会は、小・中・高・一般の選手登録が約7,000人、指導者並びに審判員の登録を含めると約8,000人規模の競技団体でございます。屋内競技では今、一番大きな団体となっております。

御案内のとおり、日本バスケットボール協会におきましては、昨年度、世界バスケットボール協会から指導を受け、日本サッカー協会の川淵チェアマンを会長に迎え入れ、今、大改革を進めているところです。本県協会におきましても、昨年10月1日に法人化しまして、協会の透明化、ガバナンス、コンプライアンス、これらの徹底を推進しているところでございます。

さて、2巡目国体の施設についてでございますが、屋内競技の代表として、県体育館に関する状況を3つの観点で述べさせていただきます。

1つ目は、構造・規模であります。

館内は、バスケットボールコートが4面、観

客数が5,000人以上の規模の収容が望ましいと考えます。現在の県体育館の規模の約2倍となります。九州管内でも、バスケットボール、実は3面とれていないのは本県だけあります。他の九州内でも、1県につき大体3つか4つ、そういう体育館を持っておりますが、本県は最高2面しかとれてないという現状であります。2巡目国体を見据えるとともに、スポーツランドを推進する拠点となる体育館が必要だと考えます。

ちょっと手前みそなんですけれども、日本バスケットボール協会、昨年度予算が13億円、本年度が26億円です。東京オリンピック、2020年度には130億円の試算で、今、経営努力しております。本年度から始まるプロリーグも、実は通信機器の大手メーカーから50億円のスポンサー契約が終了しておりまして、まさしく将来、プロ野球、サッカーのJリーグ、それからバスケットボールのB.LEAGUEと申しますけれども、これらのものがスポーツランドみやぎを推進する原動力になると、そのためにはこのような体育館が必要になってまいりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

もう一つは、高齢化が進む本県を考えますと、ゆとりのあるフロアで、多種目で多世代の多くの県民の方々がゆとりを持って多様な交流、これを行う施設としてもこの規模が適当だというふうに考えております。

2つ目の観点であります。

施設内部でありますけれども、屋内競技はカーテンで遮る競技がほとんどであります。私も団体としましても、冬以外の大会は全て熱中症対策、ハーフタイムごとに観客の皆さんにカーテンをあげさせてもらって、窓をあけてというのを、時間をとってやらなければとても対応

できない状況であります。

また、バドミントンや新体操競技のリボンなどの演技は、送風さえもストップしなければ競技ができないということで、競技開始以前に冷暖房が必須となっております。さらには、障害者スポーツ大会を見据えた場合、バリアフリーの内部設計も非常に重要なことだと考えております。

3つ目は、災害時の緊急避難所としてのあり方であります。

ことし本県で開催されます国民体育大会九州ブロック大会でありますけれども、一昨年は熊本県で開催されました。バスケットボール競技は、避難所になっている益城町体育館でありました。バスケットボールコート3面、冷暖房の整った施設であります。熊本県協会の関係、友人等も多数おりますので、私もボランティアとして、益城町体育館へ震災直後に行っていました。床と天井はかなり損傷しておりましたけれども、メインコート以外にもサブコート等、多数の関連施設を持っておりますので、震災復興拠点としての機能は十分に兼ね備えておりました。

ただし、駐車場が若干狭いことで不自由な生活を余儀なくされている被災者が多数いらしたことも申し添えます。

以上の3つの観点から、県体育館につきましては、5,000人以上の収容規模、バスケットボールコート4面以上、空調施設が整備され、障がい者や高齢者にも優しい、現在の2倍規模の体育館が必要であると考えます。予算等、課題は山積みされてることは十分承知の上で申し上げます。御検討のほど、よろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

○丸山委員長 ありがとうございます。

次に、宮崎県スポーツ施設協会様、お願いいたします。

○入倉常務理事兼事務局長 公益財団法人宮崎県スポーツ施設協会常務理事兼事務局長の入倉と申します。よろしくお願ひいたします。

スポーツ施設協会は昭和47年に発足し、宮崎県総合運動公園の有料公園施設、宮崎県体育館及びライフル射撃競技場の管理運営をそれぞれ設置当初から行っております。

なお、平成18年度からは、指定管理者として県から管理を受託しております。また、平成27年度からは、県体育協会と共同で宮崎県体育スポーツ振興グループを構成し、指定管理者として管理運営に当たっているところでございます。

私からは、宮崎県総合運動公園の有料公園施設、宮崎県体育館及びライフル射撃競技場の年間利用者数や利用者の声、災害対策等について現状を御説明申し上げます。

まず昨年度、平成27年度の年間利用者数についてでございますが、宮崎県総合運動公園は年間約133万人、宮崎県体育館は約34万人、ライフル射撃場が約1,000人となっております。近年は、大きな大会の開催のあるなしによる影響もございしますが、徐々にふえてきているという状況でございます。

次に、施設の利用者の声についてでございます。

毎年2回、9月と3月に、関係団体や一般利用者に対し利用者満足度調査を実施しております。それによりますと、評価が「ややよい」「よい」「大変よい」を合わせますと95%を超えております。多くの皆様におおむね満足して利用していただいていると考えますが、残りの悪いほうの評価の主な内容は、施設の老朽化、空調設

備の設置、備品の買い換え、整備等に関するものでございました。

なお、施設の改修等につきましては、小規模な補修は本協会に対応し、それ以上の改修等は県の関係課にお願いしながら、利用に支障がないように努めているところであります。

次に、災害対策についてであります。

県では、県総合運動公園を大規模災害時の救援活動や復興・復旧の中核となる防災拠点として位置づけていることから、スポーツ施設協会としましても、災害時における救援活動や復旧活動につきましても、行政機関等の要請に応じて所要の対応を講じることとしております。

なお、宮崎県総合運動公園におきましては、巨大津波発生時には浸水することが懸念されており、宮崎市から陸上競技場とサンマリスタジアムの2カ所が津波避難施設に指定されております。津波警報が発令されましたら、直ちに安全な場所に利用者を避難誘導できるよう定期的な訓練を実施するとともに、日ごろから利用者に津波発生時の対応につきまして協力をお願いしているところであります。

最後に、総合運動公園は、野球の読売巨人軍やサッカーJリーグの鹿島アントラーズなどのプロのチームが毎年キャンプ地として利用し、スポーツランドみやぎきの中心施設となっております。当協会としましても、プロのチーム等が満足できる環境を提供できるよう芝生管理技術などを生かして積極的に協力を行っているところでございます。今後とも多くの皆様に御利用いただき、生涯スポーツや競技スポーツの振興などに寄与していきたいと考えております。

私からは以上でございます。

○丸山委員長 ありがとうございます。

最後になりますが、宮崎県体育協会様、お願

いいたします。

○川崎専務理事 公益財団法人宮崎県体育協会専務理事の川崎重雄でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

現在、本県で九州ブロック国体が開催されております。第36回九州ブロック国体宮崎大会でございますが、夏季大会10競技、それから秋季大会21競技、冬季大会1競技の合計32競技で九州ブロック国体をやって本国体に出ていくと、それが本年は本県開催でございます。

このうち、本県が県外で開催しなくてはならない競技が4競技ございます。夏季大会におきましては水球、それからシンクロナイズドスイミング、それからカヌーのスラローム、ワイルドウォーター、それから秋季大会におきましてはライフル射撃競技、それからクレール射撃競技、冬季大会におきましてはアイスホッケー競技、これを今、九州県外の4県にお願いして開催しているところでございます。

また、今、各競技団体のほうから熱い思いを述べていただきましたが、私ども県体育協会といたしましても、毎年、いろんな内容で競技団体にヒアリングをさせていただいております。その中で現状、それから1年間の現状、それから成果、それから課題という中で、毎年上がってくる項目の中で施設整備等の要望が上がってきております。昨年も、41競技の中で28競技が施設整備等の必要性ということで強く熱望されております。特にこの2巡目国体、また九州ブロック国体もそうなんです、8年に1回の九州ブロック国体、50年に1回の本国体、こういったビッグイベントのときに施設の整備、それから器具・用具の充実、そういったものに対する期待感と熱望感を各競技団体は持っていらっしゃる。先ほどから出ておりますように、

現在の県有施設のほとんどは日本のふるさと宮崎国体の遺産でございます。国際大会や全国規模の大会が開催できる施設、また用具の整備を熱望されておりますし、同時に国体、また国際大会の開催基準に応じた器具や用具の整備を熱望されている現状がございます。

また、その整備につきましてでございますけれども、先ほど出ました施設整備の充実、それから指導者不足、それから指導者の育成、それから選手等の確保というような部分で、今、ヒアリングのやりとりの中で要望が出てきているんですが、そういったところを少しでも解消するために、県有施設の考え方としまして、県立学校の施設整備の充実、また特別支援学校の充実等を図れば、国体並びに全国障害者スポーツ大会につながっていくと考えます。

例えば、熊本県の県立菊池農業高等学校には、学校の施設がそのまま馬術の会場となっており、充実が図られております。選手の育成、それから強化並びに施設の活用、それから整備、そういったものを選挙育成と一貫してできているようです。本県で今、非常に頑張っております水球競技あたりも、学校に水球のプールがあれば、選手の育成から強化、施設の管理運営、そういったところまで一貫してできるという、そういった視点も今後しっかり見据えていく必要があるかなと思っております。

そういった中で、今回、九州ブロックをお願いしております大分県の大分商業高校、これは九州大会、全国大会が開かれるレベルの屋内プールが学校の中にしっかりと整備されております。鹿児島南高校もそうですし、熊本県立済々黈高等学校、そういったところが学校の施設で即大会が運営できるというような施設整備がされているところでございます。本県も、ぜひ今

後の整備におきましては、そういったことも考えていただければと思います。

と同時に県の関連施設、建設技術センターとか農業大学校とか警察学校、それから消防学校、そういった施設がありますが、長崎もそうですけども、警察学校におきましてはライフル射撃の施設が警察学校の中にあります。日常的にライフル、ピストルを撃てるのは警察官、自衛隊ぐらいしかございませんので、そこにしっかりとそういった施設を整備するということは非常に有効、効果的であるというふうに他県の例を見て感じているところでございます。

また、本県の自然環境もすばらしいものがたくさんございます。ダムを活用、そこについてはカヌーとかボート、今、ボート協会のほうが小林市須木のダム、あそこは1,000メートルしっかりとれる環境にあるということで活用できないかという要望が出ております。あと、河川、ボート、カヌー、それから海、サーフィン、トライアスロン、セーリング、そういったものが宮崎の自然を生かしたストロングポイントとしてあります。そういったところにも注目いただけると、国体が終わった後も活用できるのではないかなと考えます。

そのために、各市町村との連携、それから国との連携、河川とか国道とか。宮崎の国道は、自転車のロードには日本で一番マッチしやすいといえますか、使いやすい国道だというふうに言われております。それは、アップダウンがありますし、信号が少ないという点で。そういったところで、途中、水とかトイレとか中継所等を、宮崎から日南、都城、小林からずっと国道を回っていきながら、国との連携の中で整備できれば非常に効果的ではないかなというふうに思います。

また、鹿児島県におきましては、川内川流域は以前、大雨で水害がありました。その後、国交省の川内川管理事務所が、川内川の特徴を生かしまして、カヌーのスラローム、ワイルドウォーター、カヌーのフラットのレース場の整備、そういったのを地域の河川の活用という点で積極的に整備されております。宮崎県も宮崎商業高校のそばのカヌーの練習場等を整備いただいておりますが、もうちょっとワイルドウォーター、そういったところまで御協力いただけるとありがたいかなというふうに考えておるところでございます。

あとは、都城自衛隊を銃剣道の強化拠点施設としてやっていただいておりますが、自衛隊の選手の活用、それから自衛隊の施設の活用、そういったところも国のお力をかりるタイミングではないかなというふうに思っております。

また、民間との連携の中でボウリング、これも正式競技ですが民間施設しかございません。ゴルフ、これも本県特有のストロングポイントでございます。ゴルフ場はたくさんありまして、どのゴルフ場を活用しましても宮崎の場合は世界基準でございますので、こういったところは強いところかなと。また、ボルダリング、それからクレ射撃場、これは民間の施設でございます。北郷町の上村射撃場、それから宮崎市の遠山射撃場。それからJRA関係で、日本では2カ所しか馬の育成牧場はございません。宮崎県と北海道でございます。JRAにも協力いただいておりますが、もっと積極的な働きかけが必要かなというふうに思っております。それから、スイミング施設、体操ジム、こういったところの民間との連携が今後必要かなというふうに考えております。

次の国体を開催するに当たりまして、私たち

は国体・障害者スポーツ大会の成功ということで、障がい者のスポーツ普及も考えて、今、取り組んでいるところでございます。特別支援学校における障がい者スポーツ競技者の発掘、育成、普及、強化が、本県の中で13校ありますので、いろんな障がいの方々に応じた、その人に応じた特別な支援さえ届けていけば、障がい者の方々もしっかりとスポーツが享受できるという環境でございますので、今後は特別支援学校におけるスポーツの普及、振興、これもまた大きな課題かなというふうに思っております。

めぐりめぐって、あと10年後に控えております2巡目宮崎国体、本当にこのビッグイベントへの競技団体の期待感は非常に大きいものがございますので、どうぞお酌み取りいただければ幸いです。どうもありがとうございました。

○丸山委員長 ありがとうございます。各団体のほうから貴重な意見をいただきまして、まことにありがとうございました。

これからは、いただいた御意見を踏まえまして委員のほうから質疑等、また御意見等ありましたら聞いていただきたいと思いますが、できましたら、できるだけ多くの方々に発言していただきたいと思っておりますので、簡潔に質問していただいて意見交換を進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○野崎委員 御説明ありがとうございます。

どの団体とも本当に切実な訴えといえますか、説明だったんですが、まずは競技者と観客の方の安全安心の環境づくりが大事と思っているんですけども、水泳の連盟の方もお話があったんですが、熱中症でどれだけ倒れたとか、そういう現状とか事例があればちょっと御説明いただけないかなと思って。

○串間理事長 陸上競技の場合は、夏場は各大会、必ず熱中症で倒れる選手がいます。年齢によりますけれども、中学校の場合は、我々が先日行った大会では3名ほど倒れておりますし、県選手権、大人の大会になりますと、子どもよりは少なく1人ぐらいです。

ですから、熱中症対策としても、競技場をつくることによっていい環境で競技をさせてもらいたいなと思っております。

○水島理事長 水泳連盟も、競技会の中で3名から5名ぐらいの熱中症が出ております。

その中で、熱中症以外に、やはり基準に合っていない水深なので頭を打ったりといった飛び込みによる事故等もございます。

○米田専務理事 バasketボールにおきましては、この間の高校総体で2名、県体育館で熱中症が出ました。1人は救急車搬送、1人は保護者対応ということで。

今週末、中学校の大会もありますので危惧しておりますけれども、日ごろ余り運動してない人たちが一般リーグで月に1度、2度やりますけれども、そのときに実は怖いものであります。楽しくやりたい方々が実は熱中症で倒れるということで、一斉メールで呼びかけるようにしておりますけれども、そういう状況がございます。

○野崎委員 お話を聞いていると、もう改修じゃなくて新設だと僕もそんな感じを受けたんですが、県としてはどういう見解を持たれているのか。

○古木スポーツ振興課長 きょうはこの3つに来ていただいておりますけれども、関連があるものとして、改修が必要と県のほうも考えております陸上競技場とプール、そしてアリーナ、体育館のほうなんですけれども、基本的にお話

に出たように、やはり大規模な改修は必要かなということであります。新設なのか、改築なのか、そのあたりのところもございまして、いずれにしても大規模にやりかえないといけないというふうなところで、先般から申し上げておりますけれども、国体のスタートアップ事業で今どの程度の規模がということで検討はしているところでございます。

○野崎委員 お話があったように、災害時のこともあるだろうし、障がい者の万人が使える、国体が終わった後のことも考えるということで、大規模改修か新設しないともう多分無理かなということを感じているんですが、そういったことを含めてしっかりしたものをつくっていただきたいという要望をしておきますのでよろしくをお願いします。

○右松委員 現場の貴重な御意見をいただき、本当に感謝いたしております。

主要施設の陸上競技場、それからプール、そして県立体育館、こちらはあと10年という中で、私も築年数であるとか基礎であるとか骨組みであるとか、あるいは施設基準も含めて、やはり改修程度ではこれは済まないなという率直な認識です。

一昨年も特別委員会で3つの施設を訪問させていただきましたけれども、かなり老朽化が激しいと思っておりますので。やはりこの厳しい財政状況の中でスポーツランドみやぎにふさわしいような、先ほど水泳連盟の理事長さんが言われましたけれど、50年に一度の国際的に評価されるような、そういった施設が必要だということは恐らくコンセンサスで我々は持っているんですよね。先ほど言われた、負の遺産にならないようにビジネスや観光に結びつけていくということは非常に重要なことでありまして、あ

と、それからやはり何よりも大規模大会が開催できるということになれば、集客であるとか来訪者であるとか、経済効果もこれはかなり生まれてくると認識しています。ですから、つくる以上はそれにふさわしい施設が必要だというふうに思っています。

そういった中で、1つは競技力の向上の面で、もちろん幼少のころからの長い蓄積したトレーニングであるとか、それから指導者の頑張りでありますとかいろいろ要素はあると思うんですが、この新しい施設によって競技力向上に寄与できると私は確信をいたしております。そういったあたりのことをちょっとお話をいただければありがたいなと思っています。

○串間理事長 やはり環境が人を育てる、選手を育てると思っております。現在の陸上競技場では、やはりいい記録が出にくい競技場になっております。記録が出ることによって選手はモチベーションも上がる、そしてさらに頑張ろうという気になるということです。

そしてあと日ごろの競技場も、なかなかちょっと申し上げにくいのですが、冬季に関してはサッカーとかプロ野球が来ることによって、競技場が使用できず、なかなか競技力向上に結びついていかない。ですので、競技場がふえることによって、冬場の競技場不足を解消されるような設備ができるといいかなと思っています。

○水島理事長 宮崎は、松田選手というオリンピック選手が延岡から出ております。彼も、環境的には非常にいい環境ではない中でやったと思います。ただ、これは本当にまれだと思います。やはり松田選手と久世コーチの頑張り、あと延岡市の皆さん方の御協力のたまものだと思っています。

ただ、松田選手が育った環境と今現在の環境

は大きく変わっておりますし、飛び込み台一つとっても、宮崎、九州でも余りないんですが、本県の選手は初めてそこに行って経験していく。背泳ぎにしても、バックストロークレッジというのができてきたんですけども、それも本県では使用できません。今度のインターハイで初めて使用する子供たちがいるわけですが、初めて見るものを使って戦わないといけない。都会では、普通にそういったものが、常時使われている。でも、本県の選手は初めて行った場所で初めてのものを使う、こういった中で、非常に不利ではないかなと思っています。

国体開催の3年ぐらい前には、もうプレ国体並びに大きな大会を3大会開かないといけないという我々の水泳連盟のほうの基準もございまずので、それに向かってはもう本当に時間がない中でお願いしていかないといけない。水泳もスイミングスクールというのがございまずけれども、やはり50メートルのちゃんとした水泳場で練習をすることは、やはり大きな価値があるのではないかと考えております。

○米田専務理事 バスケットボールの場合、2019年度から国体の少年種別がU-16になります。いわゆる高校1年生と中学校3年生。もうそういうふうにしていかないと世界基準に合わないということで、日本国内も変わってきております。

それに伴いまして、一昨年度、全日本の田臥という選手がいますけれども、彼を招聘しまして、そのときの小学校5年生と中学校2年と高校1年とを、ある県立高校に集めましてクリニックをしました。県体育館でことしも中・高・小学生も集めて合同でクリニックをしますけれども、そうしますと、2面ありまして、リングの高さが違うところでやるにはちょっと不都合が

生じます。そういった面でも我々、当時6年後を見越して、もうあと4年しかないんですけれど、今の中1がそうなんですけれども、それを対象にしようとした場合に、次の小6がどうかといった場合に、ちょっと今の施設ではリングの高さを一々変えないと合同での強化もできない。

まさしく世界は今U-16に向かって動いているのに、我が県だけとれないということで、国体の得点においても非常に厳しい部分があると。先を見越してジュニアの養成からやっているんですけれども、施設面でちょっと対応が厳しいという現状がございます。

○丸山委員長 体育協会の方に伺いますが、ほかの競技種目で困っているというようなことがもしあれば、今の関連でお願いします。

○川崎専務理事 今の競技団体の現状といたしまして、国体の関連の41競技の中で、県内の選手として登録している実数として15競技が100人以下でございます。その中で、50人以下の競技が8競技ございます。1つは十分な施設がない、また指導者がいないと、その2つに尽きるのかなと思っております。

1巡目国体のときに強化、それから育成いただいた競技も未成熟のままでいるという現状がございますので、一つの施設整備につきましてもそういった選手育成・強化に必要な状況かなと。この状況で、10年後は天皇杯、皇后杯獲得というものに向かって今から取り組んでいくわけですが、相当戦略・戦術的な知恵を出す必要があるかなと考えております。

○右松委員 わかりました。しっかりとした新しい設備、国内はもとより国際社会にも通用するような新しい施設によって、経済効果とそれから競技力の向上にぜひともつなげていただけ

ればなと思っております。ありがとうございました。

○松村委員 バスケット協会の方にお伺いします。県体育館の場所は、宮崎市がベストだというお話を受けたんですけれども、そういう考え方でよろしいでしょうか。

○米田専務理事 国体ということでしょうか。

○松村委員 国体も含めて、施設の改修、あるいは将来的には総合的な広いアリーナで、またプロリーグのお話もあったんで、それを含めて。

○米田専務理事 先ほど申しあげましたとおり、本年度からプロリーグをサッカー協会と全く同じ組織運営で行っております。

そのプロリーグでは、8,000人以上の収容が必要との条件もあるんですけれども、そうなるべくとさいたまスーパーアリーナ以上、になります。最低限5,000人以上あればということなんですけれども、将来的には県体育館そのものが、例えばコンサートをやってみたり、もしくは県民の憩いの場であったり、それ相応の収容人員があれば、もしくは報道陣のテーブルがある、マスコミ等がきちっと対応できる、もしくはトレーナーがいる、スポーツ施設、ジムがあるというような総合的な体育館施設をつくっていただくならば、これはもうバスケットボールに限らず、全ての種目、全ての競技において屋内競技はもうそこがメッカになります。

そういった意味では、スポーツの産業化に向けての一つの柱になるとともに、県民の憩いの場、先ほど申しました高齢者がいろんな意味でゆったりといろんな種目で憩える場という、そして障がい者も含めましていろんな附属施設、部屋がありますと、そこでまず使用価値がありますので、改修でなくて、約2倍以上の面積で大きなフロアでしっかりと県民全体がいつでも

憩えるような、そういう体育館にしていだけたらなと考えているところです。

○松村委員 国体を目指しての、施設の老朽化という点でお伺いしていますけれども、まさに今お話があったとおりでと思うんです。スポーツ、もう一つは、音楽などのエンターテインメントだと思いますが、スポーツランドみやぎと言いつつも、施設が不十分であれば、幅のある活用は難しいのかなと思います。国体ということでお話をしていますけれども、それぞれ皆さんも、国体ということよりも、スポーツだけでもやっぱりそれはエンターテインメントということではいろいろ試行錯誤していただいて御提案をされるといいのかなと。財政的なものは、その後また考えていかないといけないんでしょうけれども。

例えば野球に関しては、もう各地でドーム化していますけれども、その施設自体がもうエンターテインメント施設ですよ。例えば宮崎市ということもあるんでしょうけれども、今の県の体育館、駅の向こうですよ。周辺は非常に手狭ですよ。ただ、利便性はいいけれども、駐車場は立体駐車場がありますけれども、8,000人規模とかいくなかなか場所も考えないといけないでしょうけれども。でも、そういうアリーナは本県に必要だと思います。大分とか熊本、鹿児島もそうですけれども、特に一番やっているのは福岡でしょう。スポーツだけじゃなくて、その施設を活用したエンターテインメントですよ。スポーツ・観光を目指す宮崎県としては、ちょっと施設面では情けないような感じも受けますよね。ぜひ、そのあたりでやってください。

ちなみに、よその施設のことよくわかってらっしゃると思いますけれども、8,000人規模ぐ

らいの空調も整ったような施設っていうのは、どれぐらいかかるんですか。

○米田専務理事 さいたまスーパーアリーナは世界選手権のときにつくりましたけれども、100億円にちょっと足りないもので、総合的な整備も含めましてあります。

8,000人規模というのは、あくまでもプロリーグが決勝を行ったり、選手権の決勝とか世界選手権の決勝を行うときの仕切りでありまして、最低限5,000人以上あればということでございます。

ちなみに九州各県、そういうアリーナは、例えば原発が今問題になっていますけれども、川内串木野は九電の関係で3面のアリーナをあの規模の都市でも2つ持っています。鹿児島県は鹿児島市内に2つありますので、鹿児島県だけで4つ、その程度の、5,000人規模とは申しませんが、いわゆる3面以上のアリーナという施設は持っていますし、福岡はもう総合的にプロチームを持っていますので、それも含めてあります。長崎の場合は、長崎市の体育館がそれ以上の施設をつくっています。

そういうことで、宮崎だけが残念ながらありません。今度8月の末、九州各県ブロックで本県主催ですので大会をやりますけれども、3会場に分かれて種目別にやるということで対応したいと考えているところです。

○松村委員 もう一回聞きますけれども、ないのは宮崎だけって言いましたね。強調してください。

100億円が高いか安いかわかりませんが、投資効果がどうなっていくかというのは、国体で使い終わったらっていうだけじゃないというのはもう皆さんわかっていることだと思いますので、ぜひスポーツランドみやぎ

にふさわしい、そういう施設っていうのをみんなで力を合わせて考えていかないといけないなと思います。陸上競技場、あるいは水泳場に対しても同じだと思います。いろいろ幅広く活用していくっていうこともあるでしょうし、これを機会に改修じゃなくて新設を。幾らあればいいんですかっていって出すわけにはいかないですが。何とかやれるといいですよ。

○外山委員 関連ですけれども、基本的に国体があるので既存の施設を使ったりして何とかやってやろうと、こなそうということじゃなくて、やっぱり県と我々の考え方っていうのは、さっきから言われるように、国体の開催を利用して、将来に向けてそれが永続的に利用可能でもって県内経済の浮揚につながるような思い切ったものをつくらないと、中途半端なものをつくってしまうとかえって後で何だこれはになっちゃうんで。もちろん財政面もありますけれども、やるんなら思い切ってお金も投入して、施設をつくらないと。

ともすると、宮崎県を見ているといろいろな面でちょっと中途半端な所が多いと思うんです。どうせって言葉はおかしいけれど、つくるんだったら思い切って将来的にもいろんな活用ができるようなものをつくらないといけないような気がします。もちろんそれはお金がかかりますからなかなか難しいと思うのだけれども、その範囲内でもって将来をずっと見越して、極端に言えば世界中から来るぐらいの期待を込めた施設をつくるぐらいの意気込みで検討するのがよいのではと。

どっちにしても、どう考えてもこの3会場はつくらなきゃいけませんものね。国体を受けた以上は改修じゃだめなので、つくりかえだと思っ

ています。この時点で改修しようか、建てかえようかというのではなくて、早くスタートを決めて、もう建てかえしかないんだということからスタートしないと、中途半端になって前に進まないかもしれないですね。そんな気がします。もう検討し始めているのであれば、思い切って建てかえると、どこかで方針を示して動かないと。どれだけのものをつくるかは別として。いつまでたっても、建てかえようか、既存の設備にちょっと手を加えて使おうかということ議論していただけない気がします。いろいろ知恵を絞って、県サイドは考えてください。

○後藤委員 あと、体育関係以外の県民のコンセンサスをどう得るかという大きな課題ですね。その中で、やはり防災拠点。プールで出ましたけれど、今回の熊本地震で水っていうのは大変活用されたということ、それとやはり健康増進ということ、やはりあと、大改修の後の運営、こういう方向でランニングコストはこうかかってこういった運営で賄いますよとか、そういうのをある程度お示ししないと。体育関係以外の方々は、今、非常に身の丈国体というのをマスコミの方々が言われているもんですから。そこら辺の説明できる材料というものをしっかりと持っていかないとなかなか厳しい。そのためにはやはり、今、外山委員も言われましたけれども、もう日にちが余りないものですから、早くコンセンサスを得るような努力をみんなで知恵を出し合わないといけない時期に来てるんじゃないかな。野崎委員のほうから、冒頭、課長に方向性を訊かれましたから、そっちの方向で進むのだろうと思っていますけれども、そういうことでよろしいですよ。

○古木スポーツ振興課長 先ほどからいろんな

御指摘をいただいているんですけれども、将来性の部分とか、特に競技団体の方々は今後の活用というところあたりの御発言が非常にございました。また、防災の視点もございましたし、県といたしましては、先般の特別委員会のときにもお示ししたんですけれども、4つの大きな視点を考えております。

1つは機能性、どういう機能を持ったものが必要なのかということ。あくまでも、スポーツ施設ですので国体の基準はもちろんですけれども、バリアフリーも含めて機能性を充実させないといけない。

2つ目が、将来の活用。当然、先ほどから出ていますが、体育館であるとバスケットのプロリーグとか、陸上でありますと今後のいろいろな大会やJリーグを見越してどの程度のものが必要なのか。プールにしても、今後どういう大会を誘致するときにはどの程度のものが必要かということも想定をしないといけない。特に体育館等につきましては、活用という意味では、先ほどございましたけれども、あくまでもスポーツ施設でありますけれども、アリーナとして文化的なものも想定しながらやらないといけない。スポーツだけではなくて、県民の皆様へ御理解をいただくためには、さまざまに活用できるような施設ということも調査研究の中では想定をしていく。今、後藤委員がおっしゃったように、今度はその後のランニングコストの問題もありますから、大きなものをつくったらそれだけやはり維持管理費用も要するというので、3つ目は経済性ということも十分考えないといけません。最後は防災の面で安全性ということ、大きく4点で、今、いろいろな面で総合的に判断していくということでございます。競技団体さんを始め、いろんな方のお立場もありま

すので、そういったお声も聞きながら、4つの視点を踏まえて検討してまいりたいと考えております。

○井上委員 先般の6月定例会のときには、私は2巡目の国体を本当に知事はやる気があるのかということで、知事はやりますと明確にお答えになっていますよね。やっぱりきょうお聞きした内容は非常に切実というか、もう競技を実際にやっておられる方たちの話だから、この方たちのそういう意味でのコンセンサスは得ていると思うんです。

あとは、先ほど後藤委員が言われたように、県民の皆さんの税金を投入したり、さまざまなお力添えをいただいているということなので、その知恵を発揮していただきたいということを議場で申し上げたところなのよね。この課題は、避けて通ることはできないと思うわけよ。だから、問題はバックアップとなる財政力をどうつくり上げていくのかとか、そういうことをもっと早くやらなければならない。

やっぱり県民の皆様とも、どういう形をとった場合、そして市町村ともどういう形にしたらそれが本当に確実に、先ほど松村委員からも出ましたけれど、宮崎市でなければなりませんかという問いかけは私はやっぱりきちんと受けとめるべきだと思います。高速道路沿いのインターチェンジの近くで、例えばものすごく知恵を出せば、ここで市町村の力もかりれば何かができるということもあると思うので。そして、体育協会の方の御指摘は非常に細かく具体性もあって、私はきちんと受けとめて考えていかなければいけないと思う。

だから、4つのコンセンサスはよくわかるけれども、もっと具体的に、県民の皆様にも明らかにしながら考えないといけない。そして、先

ほど水泳連盟の方たちは署名までとると言っておられました、そこまでしていただくことはなくてもやっていけるぐらいのことを示さないと。だからもっと強く県民の皆さんにはっきりとしたことを言わないと。部局内とか、小さいところで話し合っていると、本当のバックアップはしていただけないと私は思うんです。

だから、ここで100億円、ここで何億円、ここで何億円って考えたら、それだけのお金をどうやってつくり上げていくのか、重ねていくのか、国はどのくらいバックアップするのかっていうことやら含めて、きちんとした具体的な実効性のある案をつくらないといかんと思う。だから、もうここだけでひねくり回して考えているだけでは、具体的に動かないと思う。

だから、県民の皆様にも2巡目の国体を楽しみにしていただけるように、なぜ2巡目の国体を宮崎でする必要があるのかということも含めてしっかり説明して、そして高齢者の皆さんが自分の子供たち、孫たちのためにも、私はここに金も投資したいと言っていたぐらいのものにしていかないと。これだけの施設をつくらうとしたら、ちょこっとうやうやという程度のことではできないということは明らかだと思う。

だから、そこは本当に根性を入れてやらないと。そんなに時間があるとはとても思えないので。体育協会の御発言を一つ一つメモをしながら聴きましたが、本当に大事だと思う。だから、どこをどんなふうに整備したときに、財政的にも無駄がなく、県民の皆様から見てもよく工夫されているとわかっていただけるかとか、そういうことに取り組んでいかないと、皆さんに納得いただける2巡目国体を迎えることは難しくなると思うので、そこをやってください。

○古木スポーツ振興課長 今、御指摘のとおりだと思います。この施設整備についても、やはり県民の皆様の御理解、これなくしてはやはり前に進んでいかないと。できるだけ早く、今、中間的な報告というのはこの12月ぐらいには出したいと考えてますし、3月には費用等も含めて具体的にお示しをしたいと考えておりますので、できるだけ早くそういったものを県民の皆様にお示しをして御理解をいただけるようにしていきたいと思っています。

それと、やはり国体開催ということで、市町村の皆様、あるいはいろいろな県民の関係団体の方々に2巡目国体開催に関する御理解をいただけるような取り組みを、私たちのほうも努力をしていきたいと考えています。

○井上委員 目標は2巡目国体として、平成31年にあるインターハイをステップアップのための大会にしないといけないので、そして、そのことをきちんとフローチャートに書いてもらって頭の中で整理ができるようにしていかないと。県民の皆様は競技に関心を持って人ばかりではないので。だから、自分たちのお金を使っただけでもいいですよと言える力を私たちが持たないと説得力がないと思う。そして、ちょっとでも自分のお金も出しますと言わせる力を私たちが持たないと本当につくれないよ。よろしくお願いたします。

○徳重委員 水泳連盟のほうにお尋ねしたいと思うんですけれども、今、いろいろ出ている中で、陸上競技場、さらには体育館、もうこれは必須、先送りできない、早急に準備しなきゃいけないことはわかります。プールもぜひという話、これもそのとおりだと思うんです。つくった後もずっと利用できるということを考えますときに、実は一昨年だったかな、鹿児島に現地

調査に行ったことがあります。鹿児島市は、鹿児島市営のプール、これが一番大きなプールかと思いますが、たしか75億円かかったかと思えます。飛び込み板から何から全て完備されています。加えて、鹿児島市民が毎日のように利用している。いろいろな教室があって、そのプールを使っているんです。もちろん冷暖房つきです。

私は、特にプールについては、今のものでもう限界だと、こう思いますので、県全体で考えますときに宮崎市が相当な恩恵を受けてますよね。宮崎市が主体になってプールをつくると、そして県が半分でも応援すると。70億円かかるんだったら、25、30億円程度を県が応援するからつくってくれと。私はそれができると思うんです。シーガイアだって、25億円をぼんとあげたわけです。それぐらいのこと、やろうと思えばできるわけですから。だから、プールは宮崎市につくってもらおうというぐらいの思い切った考え方をしていかなければいけないんじゃないかと。そして、その利用は、もう市が事業団なり何なりに委託していろんな事業をやらればいいわけで、一年中利用すればいいわけです。子供さんからお年寄りまでそのプールを使って、体力づくり、健康づくりをしていただければいいし、そういうような形でもっていくとうまくいくんじゃないかなと思うんです。

県が、県がということで、全部県に任せたら、それこそ大きな金になるし、時間的にももう10年しかない。もう間に合わない、私はこう思っています。だから、プール、あるいは射撃場、これはもう県警と連携をとってもう少し整備されたものにしていくとか、早くそういった方向づけをしていただいて、真剣に県がお願いしないと各市町村は動かないと思うんです。私はお

願いをする立場は県だと、こう思っていますが、いかがでしょうか。

○古木スポーツ振興課長 今、委員がおっしゃったとおりです。この3つの大きな施設でございますが、これを新設ということになると、今の場所以外も考えられるということで、もちろん宮崎市というのも大きな候補になると思います。また先日、市町村の担当課レベルの課長会議を開催しまして、こういったことで今施設を検討してますということをお伝えしたところです。今おっしゃいましたように、今後、県有施設をどこに建てるかという場合に、例えば土地は市町村が提供して下さるかどうとか、あるいは建物そのものも市の施設としてつくるのに県が支援をします、もう後の運営もそれぞれの市町村でしていただきますとか、あるいは折半でやるのかいろいろな方法等も考えられると思いますので、今後は市町村さんのほうに、今、宮崎市のお話が出ましたけれども、宮崎市も当然そうですけれども、そのほかの市町村のほうもさまざまなお考えもあろうかと思っておりますので、市町村の要望や提案について、全ての市町村にお伺いをしながら進めてまいりたいと思っています。

○徳重委員 同じようなことを申し上げますが、各市町村でも、例えば都城でも、あるいは延岡でも、九州大会、あるいは全国大会ブロック大会ぐらいを開くとなりますと、どうしても宿泊までついてまいります。スポーツ少年団の九州大会をやる場合でも大体2億円落ちるとい、私はそういう試算を聞いたことがあります。スポーツ少年団の大会を1つ開けば、宿泊といろんな関係で2億円ぐらいが落ちるんだと、そう言われております。だから、市町村もやる気のあるところはあると、こう思うんです。ただ、

おたくはやってくれないかと、県が積極的
にお願いをしない限り動かないと思うんです。せ
ひひとつ前向きに検討していただきますように
お願いいたします。

○川崎専務理事 まさに私たち競技団体として
も、そういった取り組みを待ちに待っている
ところでございますが、本当になるだけ早急に2
巡目の宮崎国体・障害者スポーツ大会をどのよ
うな大会にして、何を財産として残すのかと、
そういったことについて県の方向性をしっかり
示していただければ、市町村、民間、それから
県の中でも観光、福祉、そういったところとの
連携の線もでてきて、もっともっとダイナミッ
クにこの課題は、解決に向けて前に進んでいく
んじゃないかなと思っております。

私は、県の政策審議会の委員もさせていただ
いておりますが、その中で、文化・スポーツの
振興ということが県の大きな柱とありますし、
県民の福祉、それから観光推進も大きなテーマ
としてあります。その一つとして、スポーツが
果たす役割は非常に大きなものだと思ってお
ります。特に、障害者スポーツ大会を一緒にや
るということについては、障がいを持たれてい
る方々がスポーツを通じて元気になる、スポー
ツを通じて健康になる。だから、スポーツラン
ドみやざきが全県・通年・多種目での開催の方
向に動いていくとすると、その中のコアの施設
がぜひ必要になります。また、各市町村も県が
これをやりますから市町村もこうお願いします、
民間もこうお願いしますという方向性が早く見
えると、私たち競技団体としても、今度は選手
の育成・強化については健常者がやっている強
化システムを障がい者の方々にうまく展開して
いける、そういったことで一緒にやっていける。
全くのマイプランですが、10年後は日本で一番

障がい者の輝く宮崎県、女性の輝く宮崎県、そ
して県民の輝く宮崎県に、私どもはスポーツを
通じてでも貢献できているところござ
います。

○前屋敷委員 きょうはありがとうございます。

今、川崎さんがおっしゃられたことは、本当
に大事なことだと思います。やはり国体をもつ
て何を県民の皆様が享受できるかという、その
大きな目的というものを掲げて今回の問題も取
り組んでいくことが大事だなと思っております。
きょう、多くの方から御意見もいただいて、ヒ
ントもいろいろいただいたと思います。

特に、私は環境そのものを、人材をつくる
ということも言われましたけれども、やはり大事
なことだと思うんです。そして、前回の国体も
そうですけれども、県内各地で競技が実施され
るためにも、今ありましたが、市町村と協力を
し合って、それぞれの競技を実施できる施設、
設備をきちっとしていくということですね。

そして、なぜ県内各地で競技をやるのが大事
かと思ったら、やっぱり高い水準の、国際的な
水準のいろんな競技に県内各地で接することが
できるということだと思います。もう宮崎なら
宮崎、都会に行かなければそういうのが見られ
ないじゃなくて、地元でそういう高いレベルの
スポーツに高齢者から子供たちまで県民自体が
接することができるというのは、本当に生きが
いにもつながり、そして子供たちもいろんな競
技も見ながらスポーツに対して興味関心を示し
て、自分だったらどの競技をやれば自分の持つ
てる力が発揮できるんだろうかと、いろんな夢
とか希望とかもそれに結びつけて考えられる、
そういう教育的な面があります。それから生涯
スポーツとして、健康も含めて豊かな暮らしを
そこで培うことができる面もあります。さまざま

まな課題も抱え、希望も持てるような、そういう国体にしていくことが大事だと、どの競技でもそうですけれども、それがもうベースになってると思うんです。

今、施設をどうするかという問題で、確かに莫大なお金もかかりますし、次々つくっていけば済むわけではなくて、同時進行で進めなきゃならないというところに大きな課題があるわけですが、今回のヒアリングでさまざまヒントもいただいたと思うんです。どういうふうにしてその財政を捻出するか、また県民の皆様の理解をいかに得ていくかという点では、やっぱりそういうさまざまな思いを積み上げた形で練っていくということが大事だという点を再認識できたのは、本当によかったと思ってますので、ぜひまたいろんな御意見も聞かせていただければありがたいと思います。きょうはありがとうございます。

○有岡委員 ちょっとひとつ考え方をお示ししたいと思うんですが、静岡県にこのはなアリーナというのが新しくでき上がって、見させてください。大変すばらしい施設ではあったんですが、ただ、サブの体育館があります。それが小さいと。ですから、国際大会は難しいという話です。

ですから、皆さんがおっしゃったような、今後こういう大会を持ってきたいと、誘致したいということであれば、それに見合った施設がどういうものがあるのか、できればそういう先進モデルの地域を見て示していただく。それには予算規模がどれぐらいだと、そういったものをやっぱり今は取り組む時期で、そして来年の準備委員会には提示できるというところまでやっていただくことがこの議論が深まる方法だと思っておりますので、設計ができ上がった後に変更

ということではなくて、もう今、目指すものを示していただくような各団体の努力をお願いしたいなと思っておりますので、またぜひよろしくお願ひいたします。

○丸山委員長 今、有岡委員のほうからありましたとおり、他県でこういうところをぜひ見てほしいとかいうのが、もしあればですけれども、それぞれ教えていただくとありがたいと思いますが。

○串間理事長 先日、スポーツ振興課と陸上競技協会で行かせていただきました。

1つは、先ほども申し上げましたけれども、長崎県の諫早の陸上競技場です。これはスタンドが2階建てになっておりまして、全面屋根がついております。競技の観客席が2万人規模というところで、これはJ2の基準を満たしているということになっているらしいんですが、私が望んでいる競技場は実はこの諫早の陸上競技場でありまして、大変コンパクトなものです。観客からも大変見やすく臨場感のある競技場で、これはもうサッカーのことももちろん考えて設計されたと思います。サブトラックもすぐ隣接しておりまして、先ほども申し上げましたけれども、選手にも優しい競技場だと思っております。

もう1カ所は、川崎市にあります等々力陸上競技場に行かせていただきました。これは、川崎フロンターレの本拠地になると思いますが、メインスタンドだけで80億円ぐらいかかったという、予算的には余り参考にはならなかったんですが、ただいろんな意味では選手に優しい、観客に優しいということがありまして、あと、先ほどもありましたけれども、選手と観客が一体となる、まさにエンターテインメントをそこで行うことを意識したスタンドでありました。

そのようなところが、今、私どもの考えているところです。

○水島理事長 水泳連盟は、先ほど鹿児島県のプールを言っていたいたんですが、正直、鹿児島県でも国体は観客席が厳しいと言われております。

近場でいうと、やっぱり熊本のアクアドームアリーナが観客席5,000人、それと飛び込みなどが、全部室内にまとめられております。選手の待機場所も大変広く、ドームですので使い勝手もよい。駐車場も広うございますし。

鹿児島は、残念ながら駐車場がございません。それで大会を開催するには苦慮されているようです。それと選手の控え場所が少ないので、それについても非常に今悩みどころということでした。

日本水泳連盟では、国際大会を開催できる国内施設の増設を希望しています。現在、国際大会は横浜アリーナと東京辰巳国際水泳場に集中している状況です。FINAもできたら日本に国際大会をもってきたいと意向を示しています。その理由は、日本では、安全かつ良好な環境で大会ができるからということで、日本水泳連盟としても受けたいけれども会場がもういっぱいいっぱいということで、できたら地方でできるだけ国際大会を開催できる施設を希望されておりますので、東京辰巳国際水泳場のような施設を目指していただきたいと思っております。

○米田専務理事 さいたまスーパーアリーナを見ていただくのが一番よろしいんですが、近場で申しますと、長崎県がつくっております総合体育館。これは、ギャラリーがコンサート対応になっておりまして、1階から3階までギャラリー席に上がるためのエレベーター、階段がございます。バスケットも当然3面とれまして、

冷暖房完備。さらにすばらしいのは、トレーニング施設も含めまして、事務局やいろいろな団体も入居しております。さらに中に挟んだサブアリーナがあります。

長崎市そのものが、土地がありませんから、隣接の駐車場もちよっと地下を掘り下げまして、上にじゃなくて下に駐車場をつくりながら、しかも体育館と隣接する状況でつくってございました。山の斜面を一部平面にしながらかなり金はかかったと思いますが、そういう機能的な部分ではよい体育館だと思います。

○川崎専務理事 プールの建設につきまして、同時に熊本の市営プールを御紹介いただきましたが、あそこは冬は一面スケートリンクにできるようになっております。アイスホッケー、それからスケートができるということで、そういった他種目への対応もできるということで、ぜひ参考にさせていただきたいと思っております。冬の競技にも、宮崎の場合、スキーは五ヶ瀬のおかげでフルエントリーできるようになりました。これはもう、九州では宮崎が一番です。そういった意味では、いつ入賞者を出すかというのが楽しみなんですけれども、一方、スケートにおきましては沖縄のアイスホッケーチームが九州代表で出ていくんです。これは米軍関係で、沖縄にはアイスリンクがあるからです。こういったことで、プールを新設される際には、ぜひスケート場も併せてお考えいただければありがたいと思っております。

○日高副委員長 きょうはどうもありがとうございます。

いろいろお話を聞かせていただいた中で、スポーツ施設のお話を中心でしたが、都会にああいう施設ができるということは営業利益があつてそれだけ維持管理費も十分出るからだと思

ます。先ほど言いました、いろんなすばらしい施設を建設していくためには、やはり収支がきちんと合うものでないといけないと私は思っております。こういうものをつくったらこういう大会ができて、これ位の観客数が見込めて、この程度の経済効果がありますよというのを、言葉ではなくてしっかりと数字で出していただくことが一番近道かなと思っておりますので、これから知恵を絞っていただきたいなと思います。また、署名活動という話がありましたが、署名活動というよりもやはりそういった方向で取り組んでいていただきたいなと。しっかりとその辺をお願いしたいと思っております。

それと、メインの陸上競技場について、これまで委員会の中でかなり議論はあったんですが、恐らく津波の関係で、木花の総合運動公園については場所の移転もあり得ると。確かに、先ほども申しましたように新設となりますと、やはりあそこでは無理だということになってしまうかもしれません。となってくれば、やはりいろいろな検討をしていかななくてはならないですし、また、メインスタジアムですから、やはり県庁所在地での立地は譲れないだろうと私どもも思っています。ですから、駐車場も十分な確保が必要ということと、周りの環境対策というのものもあることを考えれば、やはりおのずとどの辺がいいかというのは思い浮かぶと、私は思っているところでございます。交通アクセスについては、今かなりよくなってきていますので、その辺は問題ないかなと思っております。

それと、水泳の関係でちょっと聞いたのですが、熊本のアquadーム、これは維持管理が年間3億円かかるということを知っています。これは、県の財源からすると相当大きいお金になってきます。こちら辺もやっぱり先ほ

ど申しましたように、しっかりとできるのかということも考えていかないといけない。これはなかなか酷な言い方かもしれませんが。財政的な支援については、私たちも、国の方をお願いしなくてはならないなと正直思っているところでございます。

それともう一つ気づいたのは、芝生です。芝生の管理という話をされましたよね。木の花ドームの芝生というのはもうそろそろ取り替えの時期かなと思っております。読売巨人軍や鹿島アントラーズのようなプロスポーツ団体に満足してもらえる施設にしていけないといけないと思っております。

あと最後に、県の関連施設は、学校施設以外にもありますよね。いろいろな施設がある中で、例えば、馬術などの競技で使用できそうな施設もあるのではないかと。そういったことも県当局は、調べているのか分かりませんが、使えるものは使っていくべきだと思っておりますし、その辺がきょうの話でわかったところなので、今後、皆さんの意見を参考にしながら進めていなくちゃいけないなと思っております。よろしく願いいたします。

○水島理事長 先ほどアquadームの件、やはり3億円かかるとおっしゃいましたけれども、これは、春と秋が体育館、冬場がスケートリンク場ということで時期を分けて使用されていましたが、このような利用形態であると費用が高くなってしまって、今は、分割して使用していると聞いています。私は体育協会のほうとは意見が違うのですけれども、このような形態では経費がかかりますし、そもそも冬場に泳げないプールは必要ないので、できれば、通年でプールとして使用できる施設が望ましいと、私は考えております。

○日高副委員長 鹿児島市のプール、これはちょっと厳しいという話をされました。これは、飛び込み設備がないからだとして理解してよろしいですか。

○水島理事長 飛び込み設備が外の設置になっております。アクアドームは室内の中に全て集約されておりますので、室内でまとめていただくのがよいと思います。

○右松委員 先ほど副委員長のほうからも話がありました、場所がどこになるかはまだ決まっていません。仮に今の県の総合運動公園の場所になったとしたときに、先ほど言われたとおり、津波対策は必須になってきます。それで、競技者、それから観客の命を守るために、これは絶対にやらなければいけないことでありますし、南海トラフ地震のようなクラスのが来たら5メートルじゃきかないんです。やっぱり10メートルから15メートル、場合によってはそれ以上が必要になってきます。それで、どうするかとなったときに、やはり現状で考えられるのはバイパスへの避難経路をしっかりと設けていくことではないかと思います。南側のテニスコートのほうは、あそこはもう駅のほうになりますから、青島バイパスにつながるような形でもっていかざるを得ないと思うのです。避難タワーを隣接させるのがベストかもしれませんが、収容人数が限られてきますので、何千人、あるいは何万人という数が来たときにどうするのか。これはスポーツ振興課長にもお願いしますけれども、避難に関しては、あそこで、もしやるのでしたら、これはセットで考えてください。

○日高副委員長 障害者大会を開催しているときに、津波に襲われる可能性がある。何千人という障がい者の方が巻き込まれる可能性がある。これについては、いかなる避難施設をつくって

も、そこに誘導というのは実際は難しいのではないかと思います。ここはやはり人の命を守る、安全安心なということをメインで考えることが大切かと思えます。

それと、向こう50年を考えたときに、施設が傷んだときにまたお金がかかる。そういったことも含めて、総合的に考えていく必要があると思っておるところですが、どうですか。

○古木スポーツ振興課長 安全性につきまして、右松委員のほうからもございましたとおり、当然ここをしっかりとやっていかないといけないと思えますし、今、障がい者スポーツの件が出ましたが、課題になってくるのは、障害者スポーツ大会の開会式のときに、一番多くの出席者が見込まれます。大体1万5,000名ぐらいでしょうか。そういったときに、一つの選択肢としては、障害者スポーツ大会の開会式は別のところで行うということも、今後考えていくこともあるのかなということも踏まえて、いろいろな想定をしながら、いずれにいたしましてもそういう防災のことがクリアできるのか、できないのかということを示していきたいと思えます。

○丸山委員長 私のほうから一点だけ、スポーツ施設協会様にお伺いしたいんですが、これまで木花の運動公園を中心に余り維持のための大規模な補修などを定期的に行ってこなかった件があって、これだけ老朽化しているというのがあると、維持メンテナンスをしっかりと考えていかなくちゃいけないと。ただ国体だけではなく、その後のランニングコストを含めてやらなくてはいけないと思っているところでありまして、いろんなスポーツ施設がありますけれども、今後、ランニングコストを含めて、どのような形で施設整備を考えていけばいいかというのを、よい案があれば御助言いただくとありがたいか

など思っております。

○入倉常務理事兼事務局長 ランニングコストの問題につきましては、私たちも指定管理者として一番気にかけているところです。

例えば、最近、県外等も含めた体育以外の施設も含めた中で考えますと、見かけだけを大事にしてガラス張りにすると、非常に高温になるわけですけれども、そのために冷房に多額の費用がかかるとか、そういった問題があります。

また、本来必要である規模、通常のペースでつくるべきところを、大きいもののほうがいいだろうということにより大きく使うためにやはり維持管理コストがかかると、そういった問題もあります。

私どもとしましても、それぞれやはり大きいものをつくりたいという気持ちは十分わかるのですが、その辺も需要と供給のバランスをよく考えながらつくるべきだろうと考えております。

こういったランニングコストを下げることは、料金設定にも影響するわけで、先ほどから出ております、県民の方々健康とか生涯スポーツとして親しむ中でも、料金設定が安ければより需要もふえてくるということになりますから、常に施設そのものをつくる際には、ランニングコストというのをまず考えながらしっかりやっていくべきなんだろうなという気がいたしております。

○丸山委員長 どうもありがとうございます。

時間が押しているんですけども、せっかくの機会ですけれどもこのことは言いたかったと、言っていないことがもしあれば、各競技団体のほうから、短めに。なければもうありませんということで構いませんが。

○串間理事長 先ほどから施設を新築していくというような御意見をたくさんいただいております。

ますが、実は新築をしていただければ、私、日本陸連の理事をしておりまして、横川日本陸連会長とお話をして、日本選手権を国体の前後にぜひ持っていきたいということで了解は得ております。それに伴ってインターハイであったり、全日本中学陸上であったり、全日本実業団であったり、そういうような大会をぜひ誘致したいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○水島理事長 日本水泳連盟では、全国中学、インターハイ、そういったものを国体までにはやらなければならないという規定がございますので、そういった大会は持ってこられます。日本選手権もちゃんとしたプールができた暁には持ってきましょうということで、前会長、今のスポーツ庁長官の鈴木会長から了解を得ております。

○米田専務理事 バasketボールの場合は、今後、中体連、高体連という枠を外していく方向になっております。いわゆるクラブという形になっておりまして、総合型地域スポーツクラブを中心とした方向で動いております。すなわち、例えば65歳以上の高齢者の医療費にかかわる問題においても、先ほどのランニングコストの問題ではありませんけれども、茨城県のとある村におきましては毎年2万円のコストダウンに成功しており、これを宮崎に当てはめると県民の65歳以上が25万人とした場合に5億円、6年間トータル県民総合スポーツ運動を県体育館で繰り広げることができれば、これは6年間で30億円のコストダウンと。いわゆるかかるじゃなくて、減らすという方向も含めまして、ソフトの面からきちとしたものでまた御提案させていただくようなシステムを今つくっておりますので、よろしく願いいたします。

○川崎専務理事 私たちは競技団体を統轄する団体としまして、各競技団体の競技力向上を目指したいと思っています。各競技の競技力が高ければ、近県あるいは関西などの遠方からでも宮崎に胸をかりに来ます。また、小・中・高校生については、鍛錬でありますので上等の施設は要らないです。各学校の施設を充実させていただければ、そこで、鍛錬ですから、鍛える部分についてはそれで十分だと思っています。

それと、国体において天皇杯、皇后杯をとるには、他県の胸をかりていては最終的にはとれないということで、今、本県が推進しております日韓交流、日台交流を日常的に行って、県代表の青年・少年チームの競技力を高めていければ、というように考えております。

もう一つ言いますと、宮崎大学医学部の中でも整形外科は全国的に高いレベルで維持をいただいております。そこと連携する中で、たくさんのキャンプ、それから交流が図れる。そのサポート体制が非常に宮崎は優秀でございますので、国際的にも評価されておりますので、そういったところと連携していけば、スポーツランドみやぎのさらなる大きな踏み出しができると考えておりますので、ぜひよろしく願います。

それともう一点、新田原基地がございます。私は西都の人間ですが、防衛施設庁のお金、これはすごいものがございます。それを県央地区で有効活用できないかなと。沖縄あたりは、そういった国の補助金が県体育協会の建物を建てかえるというようなものにも活用できているようでございます。したがって、新富、西都あたりの首長がもう一踏ん張り、知事と一緒にあって、国会議員と一緒にあって頑張っていれば、新富、西都もそういった思いはたくさん

持っていらっしゃいますので、もう一押ししていただければありがたいかなと思っております。

○丸山委員長 ありがとうございます。一言お礼申し上げます。本日は、本当に大変貴重な御意見をいただきまして、まことにありがとうございました。今後、我々の委員会活動の中で十二分に活用させていただきまして、平成38年に行われる予定の2巡目国体が成功裏に終わるために我々も努力していきたいと思っております。そのためには、現場で頑張っていらっしゃるそれぞれの競技団体の皆様方の力がどうしても必要でありますので、今後とも御協力をよろしく願います。一言お礼とさせていただきます。本当にありがとうございました。

それでは、暫時休憩いたします。

午前11時54分休憩

午前11時55分再開

○丸山委員長 委員会を再開します。

まず、協議事項（1）の県内調査についてであります。

資料2をごらんください。

県北調査につきましては、8月23日から24日の日程で予定しております。

調査先につきましては、正副委員長に御一任をいただいておりますので、ごらんのよう形で行程案を作成いたしました。

1日目は、富田浜漕艇場、延岡市民体育館及び延岡市立東海中学校を伺う予定にしております。

まず、富田浜の漕艇場は、県内唯一の日本ボート協会の公認コースになっておりますので、このことも踏まえながら見ていきたいと思っております。

また、延岡市民体育館では、1巡目国体で使

用された施設でありますけれども、ここも老朽化していると聞いてるものですから、具体的な調査をしていきたいと思っております。

また、東海中学校につきましては、リオオリンピックで活躍が期待されております松田丈志選手が利用したビニールハウスの見学を含めて、地元クラブの活動状況を中心に調査したいと思っております。

2日目は、お倉ヶ浜総合公園及び門川町立門川中学校を向う予定としております。

お倉ヶ浜総合公園の施設も老朽化していると聞いておりますので、その状況について調査するとともに、東京オリンピック事前合宿等の誘致活動についても調査をしてみたいと思っております。

あと、門川中学校につきましては、昨年度、軟式野球全国大会に優勝という実績があるものですから、この辺を踏まえてスポーツ競技力向上について調査したいと思っておりますので、どうか御了承をいただきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○丸山委員長 そのように決定いたします。

なお、諸般の事情等もありますので、若干変更が出てくる場合があるかもしれませんが、そのときは正副委員長に御一任をお願いいたします。

また、県南調査であります。来週28日から29日を予定しております。屋外での調査が多く予定されるので、帽子等を持参されるなど熱中症対策をしていただければと思っております。よろしくをお願いいたします。

次に、協議事項（2）の県外調査についてでありますけれども、県外調査につきましては、10月12日から14日で予定しているところございま

す。

資料3をごらんください。

この前、沖縄のほうをメインに、また山口でも調査を行うということで、次に国体を踏まえているということで、このような形で調査先を予定しておりますが、今後、きょう聞いた意見も踏まえて、ちょっとこの調査先で本当にかどうかということも含めて御意見があれば伺いたいというふうに思っております。

暫時休憩いたします。

午前11時59分休憩

午後0時4分再開

○丸山委員長 それでは、委員会を再開いたします。

今、いろんな御意見をいただきましたけれども、県外調査の調査先につきましては、正副委員長に改めて御一任をいただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

次に、協議事項（3）の次回の委員会についてであります。

資料4をごらんください。

次回の委員会は、9月の定例会中の9月20日火曜日を予定しております。次回の委員会では、きょういろいろと協議しましたスポーツ施設を具体的に見てみたいということもありまして、午前中に木花の総合運動公園、午後に県体育館を訪問したいというふうに思っております。そういうふうに考えておりますが、このような形で調整したいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○丸山委員長 それでは、そのように決定いたします。

最後になりますが、協議事項（4）その他、

平成28年7月22日（金曜日）

何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○丸山委員長 なければ、以上で本日の委員会
を終了いたします。どうもお疲れさまでした。

午後0時5分閉会